



# エコスクールであることを実践する 杉並区立荻窪小学校



このシリーズの第3回は、荻窪小学校の西脇裕高校長先生からお話を伺いました。

## ★概要

荻窪小学校（以下「荻小」）は、1951年の創立、来年には70周年を迎えます。この間、2009年に場所を移転して広々とした校庭となり（敷地面積1.1ha）、校舎はエコロジーに配慮した先端的設計です。在籍する児童数は706名（2020年6月1日現在）、23学級からなっています。近隣には杉並区立宮前中学校があり、この辺りは学園地域ともなっています。コロナウイルス感染症拡大のなか、3月には休業、新学期が再開されたのは6月に入ってから（通常の登校下校は15日になってから）のことでした。学期末に近い大変ご多忙のなか、取材を受けてくださいました。

## ★学校の特徴

荻小の特徴は、校舎・施設のみならず教育面にも環境課題を取り入れており、名実ともに「エコスクール」であることです。杉並区では2006年ごろから「エコスクール」の推進事業が進められてきましたが、荻小の場合、学校の移転（跡地は大宮前体育館へ）と校舎新築に合わせ、環境配慮型の校舎新築（地下部分に備えたクールヒートトレンチなどは有名）と運営方式、加えて教育面で施設を利用した環境教育が進められてきたことがあげられます。荻小独自の環境学習プログラム（低学年では「荻小の自然探検」、中学年では「日なたと日陰」、高学年では「荻小のエコ探検」など）が実施されてきました。環境教育は児童だけでなく学校を拠点として家庭や地域の人々の協力も得て行われ、「学校支援本部」の支えも重要です。また、荻小はコミュニティスクールでもあります。



エコ校舎を学ぶ「エコタワー」



荻小のエコマップ

## ★具体的な重点目標

荻小には4つの教育活動の重点キーワードがあります。「心を育てる」では人間尊重を、「一人一人を大切に」では全学級での特別

支援教育の充実を、「つながりを活かす」では小中一貫、幼保小連携、学校間交流を、「広い目を育てる」ではエコロジーマインドを育て持続可能な社会の実現をめざすことをあげています。平成30年度・令和元年度には「社会的事象に目を向け、自分なりの疑問や考えをもち、進んで解決しようとする児童の育成」という研究課題を掲げ研究指定校となり、全校で取り組みをしてきました。この学習経験もあって、コロナ禍にあっても子どもたちに自律心が備わってきているように見受けられると伺いました。



マスク着用での話し合い活動



学び合う子どもたち

## ★西脇校長の思い・具体的計画

コロナ禍による学校休業の後、子どもたちが6月上旬からの学校再開を喜びと同時に、学ぶ機会を求めている様子を見て、これまで取り組んできた、子どもたち自身が「問い」をもち、クラスメートと「話し合い」、学びを「振り返る」という教育の方向性の正しさと学校が「学び合う場」であることの重要性を実感されたそうです。また具体的に計画していることは「特色ある学校づくり」にもあげている小学校を起点とした「地域連携の再構築」で、環境教育に育まれた子どもたちに加えて保護者・地域住民を巻き込んだ、地域資源を見つめなおすエコツアー、来年の開校70周年に向けて荻小を知ってもらうための「荻小メモリアルフロア」の整備をあげられていました。

### 杉並区立荻窪小学校

住所:168-0081 東京都杉並区宮前2-13-18 電話:03-3333-6628  
ホームページ:[www.suginami-school.ed.jp/ogikuboshou/](http://www.suginami-school.ed.jp/ogikuboshou/)